

関東地方整備局同時発表

平成28年4月7日
道路局 国道・防災課

圏央道で湘南が身近に！ 観光客の2割増に貢献

～圏央道埼玉県区間 全線開通3ヶ月後のストック効果※をお知らせします～

平成27年10月31日(土)に圏央道(桶川北本IC～白岡^{おけがわきたもと}菖蒲^{しらおかしょうぶ}IC)が開通したことによるストック効果※をお知らせします。

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果

<主なストック効果>

○湘南地区への観光客が増加

- ・湘南地区では、北関東など遠方からの観光客の増加を実感との声
- ・圏央道で湘南地区へ来訪した車が約4割増加、観光客の約2割増加に貢献
- ・地元では広域観光交流に向けた取り組みが始まった

○配送時間短縮により物流の生産性向上に寄与

- ・アクセス性に優れた白岡菖蒲IC付近に大型物流センターを立地
- ・圏央道の開通により、配送時間が30分短縮
- ・今後は、トラックの有効活用による配送効率化を進め更なる生産性向上を検討

○生活道路の安全性が向上

- ・圏央道の開通により、混雑を避け生活道路に流入していた交通量が減少
- ・川越栗橋線の周辺では、急ブレーキ発生回数がほぼ半減
事故発生件数が約21%減少 (県全体は約7%減少)

○通行止め時の広域迂回ルートが確保

- ・外環道など圏央道周辺の高速道路で通行止が発生しても、圏央道を利用して迂回することで、一般道での渋滞を回避

【問い合わせ先】

国土交通省 道路局 国道・防災課 企画専門官 依田 秀則

電話：03-5253-8111 (内線：37832)

直通：03-5253-8492 FAX：03-5253-1620



— 記者発表資料 —

国土交通省
東日本高速道路株式会社

平成27年10月31日(土)に圏央道おげがわきたもと(桶川北本IC~しらおかしょうぶ白岡菖蒲IC)が開通

圏央道で湘南が身近に! 観光客の2割増に貢献

～ 圏央道埼玉県区間 全線開通3ヶ月後のストック効果※をお知らせします～

※ スtock効果: 整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果。

<主なストック効果>

- 湘南地区への観光客が増加 (p2~3)
 - ・湘南地区では、北関東など遠方からの観光客の増加を実感との声
 - ・圏央道で湘南地区へ来訪した車が約4割増加、観光客の約2割増加に貢献
 - ・地元では広域観光交流に向けた取り組みが始まった
- 配送時間短縮により物流の生産性向上に寄与 (p4)
 - ・アクセス性に優れた白岡菖蒲IC付近に大型物流センターを立地
 - ・圏央道の開通により、配送時間が30分短縮
 - ・今後は、トラックの有効活用による配送効率化を進め更なる生産性向上を検討
- 生活道路の安全性が向上 (p5)
 - ・圏央道の開通により、混雑を避け生活道路に流入していた交通量が減少
 - ・川越栗橋線の周辺では、急ブレーキ発生回数がほぼ半減
事故発生件数が約21%減少 (県全体は約7%減少)
- 通行止め時の広域迂回ルートが確保 (p6)
 - ・外環道など圏央道周辺の高速道路で通行止めが発生しても、圏央道を利用して迂回することで、一般道での渋滞を回避

平成28年度には、東名高速から東関東道が圏央道でつながります。
圏央道(境古河IC~さかいこがつくば中央IC間) 開通予定

発表記者クラブ

国土交通省記者会、国土交通省建設専門紙記者会、国土交通省交通運輸記者会
埼玉県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会
千葉県政記者会、都庁記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、八王子記者クラブ、立川市政記者クラブ
青梅・西多摩記者クラブ、横浜市政記者会、横浜ラジオ・テレビ記者会、相模原記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所 TEL:048-669-1200(代表)

副所長 こばやし たつゆり 小林 達徳 計画課長 はいしま ひろのぶ 配島 洋伸

東日本高速道路株式会社 【報道関係専用】 関東支社広報課 TEL:048-631-0222

効果③ 配送時間短縮により物流の生産性向上に寄与

- 化粧品・日用品、一般用医薬品の卸売業の最大手「(株)PALTAC」は、関東エリアでの事業拡大のため、アクセス性に優れた白岡菖蒲ICに、最新大型物流センターを立地
- 圏央道の開通により、白岡菖蒲IC～入間IC間の配送時間が75分から45分と30分（4割）短縮したとの声。
- 今後は、トラックの有効活用による、配送効率化を進め更なる生産性向上を検討中

圏央道を活用する物流業者の声

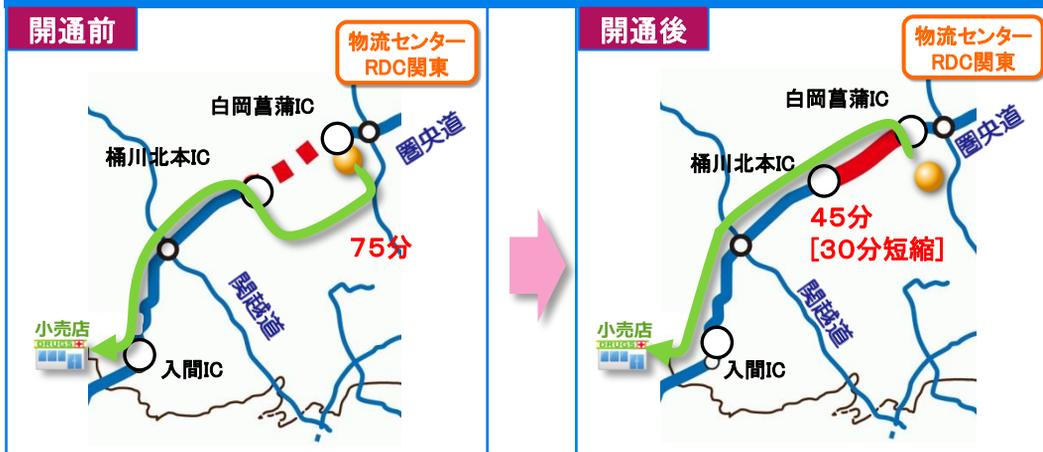
【(株)PALTAC】卸売業

- 最大市場である関東エリア（1都6県）において事業を拡大するため、利便性の高い広域ネットワークが形成された圏央道沿線（白岡菖蒲IC）に、平成27年8月「RDC関東」（大型物流センター）を設置しました。
- 圏央道開通により、「RDC関東」から入間IC周辺の小売業様への配送時間が約75分から約45分に短縮しました。
- 今後は、RDC関東とRDC横浜を連携させ、入間IC周辺への配送後RDC横浜から埼玉方面への配送を行うなど、配送効率化による更なる生産性向上を期待しています。



(株)PALTAC「RDC関東」(2015年開設)の概要
事業内容 化粧品・日用品、一般用医薬品等の卸売事業
所在地 埼玉県白岡市

桶川北本IC～白岡菖蒲IC間の開通により、配送時間が30分短縮



各物流センターと連携した配送先の効率化（検討中イメージ）



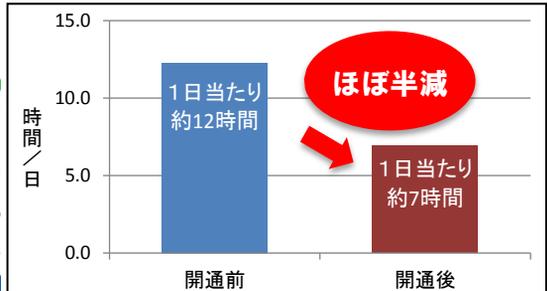
効果④ 生活道路の安全性が向上

- 圏央道の開通により、川越栗橋線の交通が圏央道に転換。混雑を避け生活道路に流入していた交通量が大幅に減少
- 川越栗橋線の周辺では、渋滞発生時間・急ブレーキ発生回数がほぼ半減
- 埼玉県全体の事故発生件数が約7%減少しているのに比べ、川越栗橋線周辺では圏央道の整備効果もあり約21%と大幅に減少

圏央道に並行する川越栗橋線周辺地域の交通状況

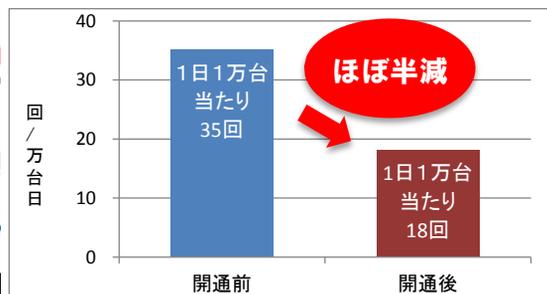


川越栗橋線周辺地域での渋滞発生時間*1の変化



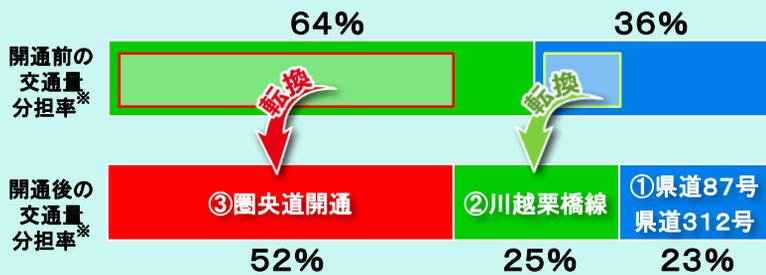
開通前: H27.10.1~H27.10.30
 開通後: H27.11.1~H27.11.30
 出典) ETC道路プローブデータ
 ※1: 各月・各時間帯別の区間旅行速度20km/h以下の時間帯

川越栗橋線周辺地域での急ブレーキ発生回数*2の変化



開通前: H27.10.1~H27.10.30
 開通後: H27.11.1~H27.11.30
 出典) ETC道路プローブデータ
 ※2: 単位車両あたりの-0.3G以上の急減速発生回数
 「減速度0.3G以上」を急ブレーキと定義。一般的に旅客輸送では0.3Gを越えると乗客に不快感を与えると考えられている。

玉突き効果

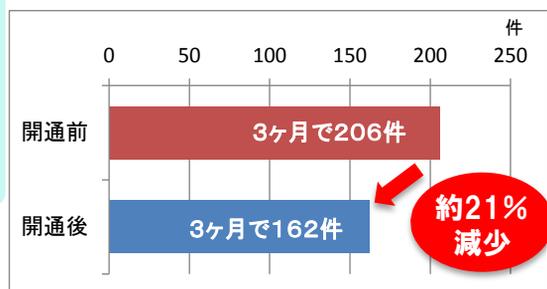


開通前: H27.10.1~H27.10.30 開通後: H27.11.1~H27.11.30
 出典) ETC道路プローブデータ ※分担率: 路線間の交通量(期間内の合計サンプル台数)の割合

川越栗橋線の交通状況



川越栗橋線周辺地域での事故発生件数の変化



開通前: H26.11~H27.1
 開通後: H27.11~H28.1
 出典) 埼玉県警察本部データ
 死傷事故発生件数の推移(物損は含まない)
 参考) 埼玉県全体の事故件数の比較
 開通前: 8208件
 開通後: 7651件(約7%減少)

効果⑤ 通行止め時の広域迂回ルートが確保

- 外環道など圏央道周辺の高速道路で通行止が発生しても、圏央道を利用して迂回することで、一般道での渋滞を回避



川口JCT～鶴ヶ島JCTのルート

- ◀ ◻ ◻ ◻ ▶ 圏央道開通前の迂回ルート (関越道・一般道・外環道利用)
- ↔ 圏央道開通後の迂回ルート (圏央道・東北道利用)

<外環道通行止発生時の川口JCT～鶴ヶ島JCTの所要時間(推定)>

- ・関越道・一般道・外環道利用 : 約50分 (所沢IC～和光ICは一般道(国道254号)利用)
- ・圏央道・東北道利用 : 約35分

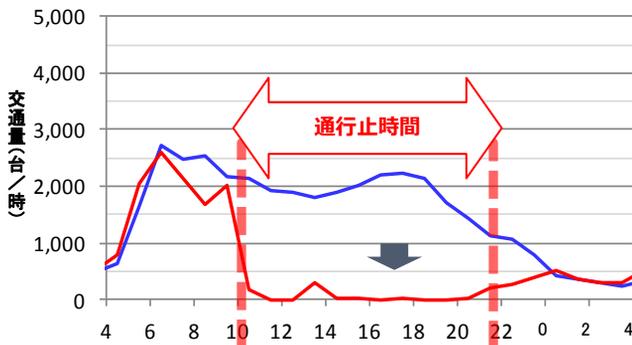
【参考:通行止めが発生していない場合】
 ・関越道・外環道利用 : 約30分

出典:NEXCOデータ、H22センサスデータより算出

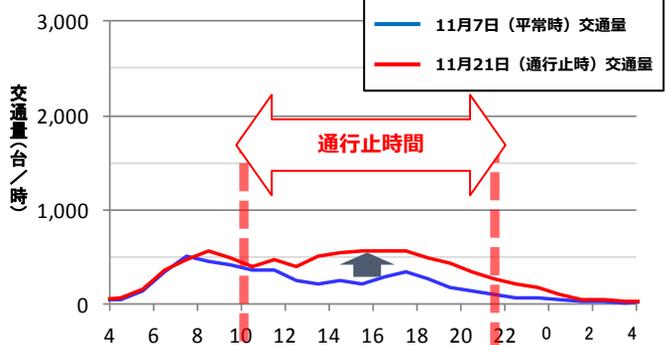
<外環道の通行止発生事例>

① 通行止区間:大泉JCT～和光IC(内回り) 通行止時間:H27年11月21日(土) 10:10～21:45

外環道(大泉JCT～和光IC内回り)

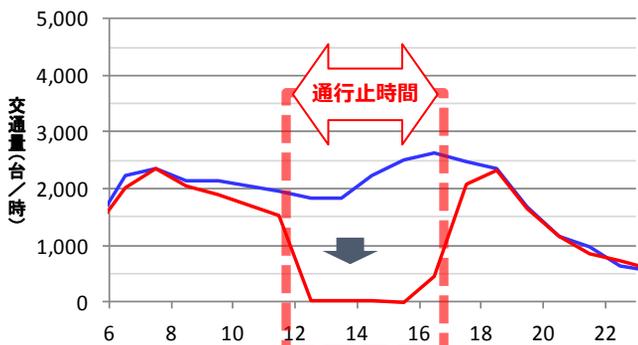


久喜白岡JCT Hランプ(東北道下り⇒圏央道内回り)

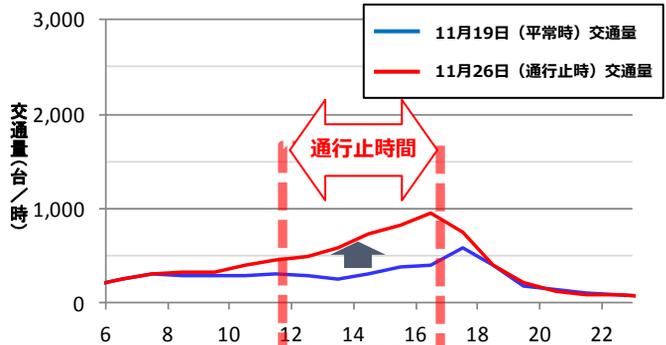


② 通行止区間:大泉JCT～和光IC(外回り) 通行止時間:H27年11月26日(木) 11:55～16:40

外環道(大泉JCT～和光IC外回り)



久喜白岡JCT Eランプ(圏央道外回り⇒東北道上り)

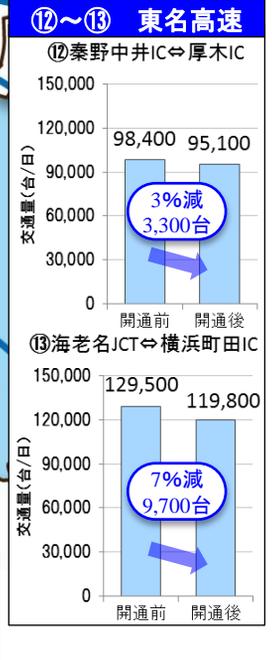
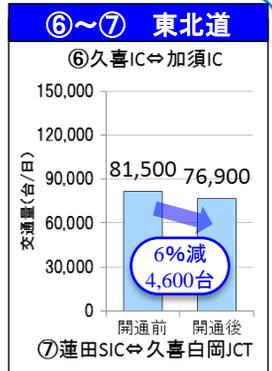


※出典:NEXCOデータ

参考①

開通3ヶ月後の交通状況 [高速道路]

- 今回開通区間（桶川加納IC～白岡菖蒲IC）の交通量は、平均30,400台/日
- これまでに開通している圏央道の関越道～中央道間、中央道～東名高速間の交通量が約6～7%増加
- 東名高速では、圏央道の迂回機能によって圏央道内側の交通量が減少（-9,700台/日）
- 今回開通区間に並行する外環道では、圏央道への転換により交通量が減少（-8,700台/日）



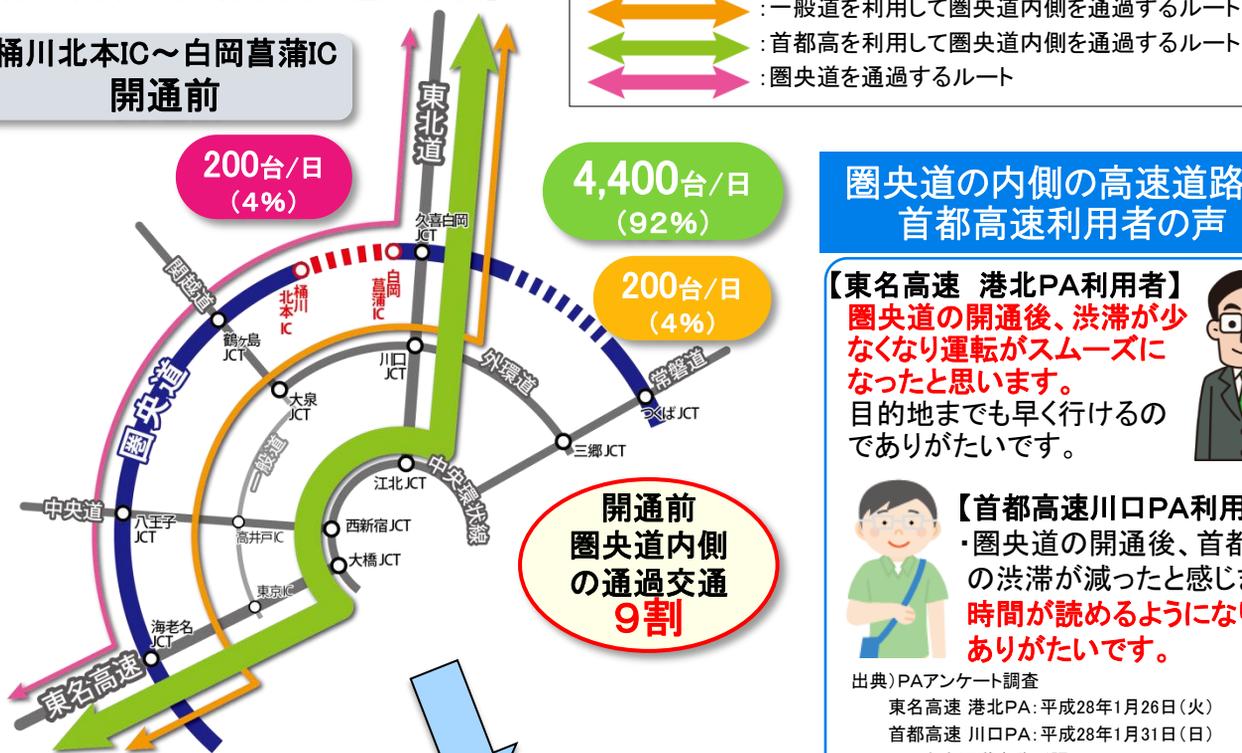
凡例
■ : 開通後に増加した断面
■ : 開通後に減少した断面
■ : 開通前後で変化のない断面

出典)NEXCOデータ 開通前:平成27年10月1日(木)～10月30日(金)の日交通量の平均値 開通後:平成27年11月1日(日)～平成28年1月31日(日)の日交通量の平均値
 ※東名高速の集中工事期間 平成27年11月16日(月)～11月29日(日) 及び 12月26日(土)～1月3日(日)を除く

- 圏央道内側の通過交通が9割⇒3割に減少、交通の転換が引き続き図られています。
- 道路利用者から移動時間の変化を実感頂いています。

【東名高速⇄東北道間の経路選択】

桶川北本IC～白岡菫蒲IC
開通前



圏央道の内側の高速道路や首都高速利用者の声

【東名高速 港北PA利用者】
 圏央道の開通後、渋滞が少なくなり運転がスムーズになったと思います。
 目的地までも早く行けるのでありがたいです。



【首都高速川口PA利用者】
 ・圏央道の開通後、首都高の渋滞が減ったと感じます。
 時間が読めるようになりありがたいです。

出典) PAアンケート調査
 東名高速 港北PA: 平成28年1月26日(火)
 首都高速 川口PA: 平成28年1月31日(日)
 (大宮国道事務所調べ)

圏央道内側の交通が
9割から3割に減少

桶川北本IC～白岡菫蒲IC
開通後



4月からの首都圏の新たな高速道路料金により
さらなる転換が期待

出典) ETCログデータ
 圏央道開通前: 平成27年10月1日(日)～30日(土)の平日
 圏央道開通後: 平成27年11月1日(日)～12月25日(金)の平日
 ※東名高速の集中工事期間
 平成27年11月16日(月)～11月27日(金)を除く

圏央道開通区間概要

●首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏の道路交通の円滑化、沿線都市間の連絡強化等を目的とした、都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。平成27年10月31日（土）、桶川北本IC～白岡菫蒲IC間、延長約10.8kmが開通したことにより、圏央道埼玉県区間は全線開通となりました。圏央道埼玉県区間は昭和60年度、都県境～関越道間の事業化に始まり、約30年の年月を経て全線開通を迎えたこととなります。今回の開通により、圏央道は、現在までに約241kmが開通しています。

●今回開通区間の概要

路線名：国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

○開通区間：桶川北本IC（埼玉県桶川市川田谷）～白岡菫蒲IC（埼玉県久喜市菫蒲町上大崎）

○開通日：平成27年10月31日（土）15時

○延長：10.8km

○車線数：4車線

○開通IC：桶川加納IC

○開通PA：菫蒲PA

環状道路の4つの役割

交通の流れをスムーズに!

1 都心を通るだけのクルマを減らして渋滞緩和へ。



通過交通の都心流入を抑制します。

2 郊外からいろいろなルートで都心へ。渋滞も緩和へ。



郊外から都心への交通を分散導入します。

3 地域間の移動をスムーズに。



周辺地域の移動が直接できます。

4 災害時などの代替の道、確保へ。



災害や事故などで一部区間の不通があっても速やかに移動できます。

■今回開通区間の位置図

